

● 7月選評

小島なお

・春町 美月（大阪府）

蝙蝠がてんでばらばらに飛び回り
いじめられつ子役に集中できない

舞台の上ですらいじめる側といじめられる側があつて、役者はひたすら自分の役に徹さなければいけない。蝙蝠は加害者／被害者どちらの内面の比喩だろう。

・榛野烏梅（神奈川県）

びー玉を呑みこむのは

びー玉の中に入りたかつたから

これまでどれほどの人や犬や鴉がビー玉を呑みこんでいただろう。天地をひっくり返しながら転がるビー玉に閉じ込められている可哀相で美しいものたち。

・青野陽（熊本県）

しゃらしゃらと歩く先生、

「きよら」って、

そのネックレスが揺れている音？

まるでネックレスそのものみたいにしゃらしゃらと光りながら揺れながらゆく先生。平安時代の言う「きよら」は一流の美しさのこと。

・氷丸（茨城県）

電車去つて

日曜が戻る

線路沿いの風を重たくする

ナガミヒナゲシの静かな性欲

電車が運び去つていった月火水木金土。線路沿いには生殖のための日曜日だけが残る。他の植物を駆逐してでも繁殖したい欲望が赤く揺れているのが見える。

・高々（愛知県）

午前0時

どうしても真ん中が
見つけられない

きのうと今日の真ん中。夜と朝の真ん中。時計の文字盤の真ん中。自分の真ん中。
真ん中にはなにか真実めいたものがありそうで、「0」には空洞しかない。

・心理（熊本県）

あたしはあなたをおぼえている

「暗記」よりも深い場所で

意識よりももつと

あなたのことを暗記していても点数はもらえないし、進学もできない。何一つこ
れからの私の役に立たないあなたをあたしはながく忘れない。

・李いう子（佐賀県）

洞窟の壁画は秋の願い事

古代の人たちが残したあれらの壁画は、別に彼らの生活や文明の記録ではない。
いつの世も現実離れした願いのなかでしか人間は生きられない。

・螺良 美月（栃木県）

ガムシロップまみれ

スマートフォン

スクリーンショット

スクリーンショット

ガムシロップまみれの指で触るスマートフォン。そんなことよりも今保存して
おきたい瞬間がある。スマホには何をしても許されるような気がしている。

・にやー（群馬県）

人間は

3番目の月

ぐらいが

ちょうどいい

0番目の月を新月と数えるなら三日月。新月の神秘はおおげさだらうし、半月といいうのも欲張りだらう。ましてや満月など。三日月の纖さと強かさを胸に。

・よしこ（千葉県）

近づいて

もっと近づいてね約束

私の指を離さないでよ

指と指を絡ませる約束は信用できない。人類史でことごとく破られてきたから。約束そのものと約束することになつて、守られるようになるといいのだけれど。